

令和3年度 夢風船 事業報告書

1 総括

令和3年度は、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への対応に追われる一年となった。2年度は、利用者に感染者が出なかったが、3年度は数名の感染者のため2日間の事業停止を行うなど、その影響はより一層大きくなった。体調不良者が出るたびに利用を自粛する利用者も多く、一日平均利用者数は21.1人と新型コロナウイルス感染症拡大が本格化した2年度の22.4人より更に低くなった（令和元年度実績23.7人）。

活動は概ね2年度と同様に行い、音楽活動、プール、余暇支援のカラオケ等を中止とし、事業所内での活動や感染のリスクの少ない場所への外出を多く持つようにした。多くの利用者が楽しみにしている旅行は、11月の感染者減少時期に企画したこともあって実施でき、利用者のストレス軽減に大きな効果があったといえる。様々な制約が長期間に渡っているが、利用者もこの状況に適応しつつあり、昨年度に比べると安定して過ごせた利用者が多かった。また、利用者の主体性の向上、安全確保、生活全般の支援、健康管理の重点課題について継続して取り組み、少しずつ効果が出ていると感じている。

2 事業概要

- 1) 事業所名 : 夢風船
- 2) 事業種別 : 生活介護
- 3) 所在地 : 東京都小平市小川町2-1931-1
- 4) 経営主体 : 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 : 20名
- 6) 利用現員 : 29名（令和4年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 : 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 : 平成26年11月1日
- 9) 職員（令和4年3月31日現在）
 - 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名（常勤換算1.0）
 - 生活支援員 16名（常勤換算13.8）
 - 看護職 1名（常勤換算1.0）
 - 嘱託医 1名

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
- 3) 安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援
- 6) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① 資源回収作業
- ② 弁当箱配達回収作業
- ③ 公園清掃受託作業
- ④ シュレッダー作業
- ⑤ PC入力作業
- ⑥ 折紙製品作成事業
- ⑦ その他受注作業

2) 生活支援事業

- ① 入浴（毎日）
- ② 運動プログラム（ウォーキング・腹筋運動等）
- ③ バイタルチェック（朝・入浴前）
- ④ 余暇支援事業

3) 行事等

- | | |
|-----|-------------|
| 4月 | 利用者永年勤続表彰 |
| 5月 | ドライブ |
| 6月 | 染物体験 |
| 7月 | 夏祭り |
| 8月 | アイスクリームを食べる |
| 9月 | 運動会 |
| 10月 | ドライブ・さつま芋調理 |
| 11月 | 一泊旅行（栃木県） |
| 12月 | 忘年会 |
| 1月 | 餅つき・初詣 |
| 2月 | 節分 |
| 3月 | 遠足（東村山中央公園） |

6 日 課

開所・送迎	8:30～9:30
バイタルチェック	9:00～9:30
朝礼	9:30～9:40
出席確認・連絡事項・活動の確認	
活動	9:40～11:30
作業（資源回収作業／弁当箱配達回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
昼食・休憩	11:30～13:30
昼礼	13:30～13:35
連絡事項・活動の確認	
活動	13:35～15:50
作業（資源回収作業／弁当箱回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
終礼	15:50～16:00
送迎・清掃	16:00～17:10

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

1 F—

(1) 利用者の主体性の向上に向けた活動

朝礼等の司会の他、利用者が参加する場面を設ける。(行事の企画、日々の活動内容の決定、新たな活動や作業の開拓など)また、自ら考える場面を増やし、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

朝礼の司会の当番制や利用者自らの予定の報告等は、これまで継続して行ってきており、定着している。また、法人HPの更新作業、折紙クラフトの自主製品の新品開発やヴェルデのクッキーのネット販売等利用者から積極的にアイデアが出された。実現に至らなかったものもあるが、1月からHPの更新作業受託を実施できたことは利用者にとって大きな成果となった。行事の企画や日々の活動の内容の決定については、時間的制約等があり、実施できなかった。

2 F—

(1) 利用者の安全確保

利用者個々の特性を理解のうえ、見守りの強化や精神的な安定に向けた環境設定やコミュニケーションにより、離接や他害行動、自傷行為などの防止を徹底する。

【成果と課題】

多くの利用者が概ね安定して活動ができており、他害、離接等で大きな事故には至らなかった。個々の利用者の特性等についての理解が進み、不安等原因の解消と見守りによる事故の事前防止がある程度できているといえる。しかし天候による不安や不穏化の原因がわからないなど、根本的な対策がとりにくいこともあり、他害等の問題行動の完全な消失に至っていない。

1・2 F 共通—

(1) 利用者の生活全般にわたる支援の充実。

本人や家族の高齢化等による生活基盤が脆弱化しつつある利用者に対して、相談支援の充実、衛生保持、健康管理、日常の軽微な事柄への支援、専門機関への連絡調整、将来の居住環境整備に向けた準備など幅広く柔軟な支援を行う。

【成果と課題】

緊急時の4時以降の延長支援などのニーズに対して柔軟な対応を行ったほか、2名については後見人との連携により支援を行った。また、5月に2名がGHに入居したが、GHとも良く連携が取れ、概ね順調に新生活に移行できた。

(2) 各利用者の可能性の発見と伸長にむけた活動(作業)の開拓と支援

活動や生活場面において、様々な経験を通して能力や興味関心の発見とその伸長を目指すことで、一人ひとりがやりがいをもって生活できるように支援を行う。

【成果と課題】

作業の継続により、流れを理解し、自発的に作業に取り組むことは全般的に定着している。多くの利用者に継続力や集中力の向上が見られたほか、仲間やルールを意識した行動を取れ

る利用者も増えてきている。また、身辺自立、身体機能の維持向上のための取り組みなどは、利用者の状況に応じてその都度変更するなど丁寧に行ってきた。成果が見えにくい部分は多いが、機能低下の防止など等の効果はあると考えている。外部からの新規作業開拓は新型コロナウイルスの感染拡大もあり、積極的には行えなかった。

(3) 健康管理の充実

- ① 新型コロナウイルスの感染症など感染症対策を徹底する。
- ② 一人ひとりの健康管理や衛生保持、また身体機能の維持向上を丁寧に行うとともに、疾病、けが等への迅速な対応を行う。

【成果と課題】

- ① 手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用など基本的な感染対策のほか、体調不良者がいた場合の各家庭への連絡など情報提供を丁寧を実施した。利用者の中にはマスクの着用が難しい方もいるが、継続した声掛けで利用者のマスクの着用率は少しずつ向上している。また、8月と3月に新型コロナウイルス、12月にインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。9月から10月にかけて新型コロナウイルス感染症の感染者が数名あったが、感染の拡大は防止できた。
- ② 毎日のバイタルチェック、入浴時の身体チェックによる健康管理や身体機能維持のためのリハビリ、また肥満防止、健康保持のためのウォーキングや腹筋運動等を継続的に実施した。肥満傾向のある方については、全般的に体重増加は防止できている。本年1月から12月までの体重と血圧の変動のグラフを各利用者に配布した。

2) 人材育成

- (1) 管理職候補者の育成
- (2) P D C Aサイクルの実施による利用者支援スキルの向上。
- (3) 職員間の連携協同体制の強化
- (4) 経験年数3年未満の職員の育成強化

【成果と課題】

- (1) 対象者1名に学習会を実施し、経理の知識の習得を行った。また、リーダーミーティング等により、事業所の運営に主体的に取り組む姿勢が向上した。
- (2) 日々のミーティングのケース検討の実施や、支援計画を意識した記録についての継続的な指導により、P D C Aサイクルの考え方は定着してきている。職員間の差はあるが、個々の利用者の状況を良く知り、関係性を深めることで支援スキルは全般的に向上がみられた。
- (3) 密な情報共有が行えており、支援方針の統一や連携が取れた支援は概ね実施できた。
- (4) 支援方法や個々の利用者の特性等については先輩職員から丁寧に伝達されている。方法だけではなく意味合いを伝えることが重要だが、この点は職員によって差がみられ、不十分であった。内部牽制については徐々に改善しているが、一部職員を除き、まだ消極的な部分が多い。

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

- ① 1日平均利用者23.2人(29人在籍利用率80%)を目標とし、利用者の安定通所を図る。(令和2年度実績1日平均利用者22.3人、29人在籍77%—令和3年1月末現在。)
(具体的方策)

- ・送迎場所や時間など柔軟な対応を行う。
- ・健康状態の確認など家庭やグループホームとの連絡調整を密に行う。
- ② 職員配置数を維持し重度障害者支援加算の算定を継続する。
- ③ 介護福祉士などの資格取得により福祉職員専門配置加算のランクアップを図る。

【成果と課題】

- ① コロナウィルスの影響により1日平均利用者数は21.1人となり、目標に達しなかったほか、昨年度の22.4人も下回った。また、昨年度あった重度障害者支援加算の初期加算の算定期間が終了したことで報酬単価のダウンがあり、給付費収入は昨年度の1億810万円から340万円減額し、1億470万円となった（但し、職員配置減による人件費の削減で収支状況は安定）。
- ② 2名退職があったが、必要な配置は維持し、重度障害者支援加算の対象者15名の算定を継続した。
- ③ 1名が新たに介護福祉士資格、他1名が社会福祉士資格を取得したが、加算ランクアップにまでは至らなかった。

(2) 月次試算による状況分析

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。緊急的支出に対しては、充当資金の調達のため計画の優先順位を設定する。

【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態を把握したほか、緊急的な支出も発生せず、計画的な予算執行ができた。

(3) 節電等による経費削減

水道光熱費や消耗品など、活動に影響が出ない範囲で節約意識を共有し、経費削減に努める。

【成果と課題】

使用していない場所の消灯など節電意識は概ね浸透しているが、照明等の消し忘れはまだ見られる。同じ職員が行う傾向にあり、行動の改善に個人差がみられた。

8 その他の成果と課題

- 1) 施設間交流の促進とそれによる支援の充実を図るために夢の樹みどりと相互に職員を派遣し合う取り組みは7月末迄実施したが、8月以降は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、実施できなかった。
- 2) 療養介護施設入居者1名の月1回の受け入れは、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に対する入居先の施設の方針により実施できなかった。

9 事故等報告

- 1) 5月 作業で車両を運転中に電柱に接触し、同乗していた利用者1名がむち打ちとなり、法人加入の損害賠償保険で治療費等の補償を行った。症状は軽く後遺症等はみられなかった。
- 2) 7月 利用者が昼食前の薬（漢方薬）を誤って2回服用するが、健康状態に問題はなかった。
- 3) 10月 作業で車両を運転中に他の車両と接触した。双方の車両に少し傷ができる程度の

軽い接触であり、運転者、同乗者、相手方に怪我人はなかった。警察に通報したが、双方賠償請求はしなかった。

1 0 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前9時～午後4時
- (3) 年間延開所日数 241日間 (前年度 242日)
- (4) 平均活動時間 7時間

1 1 利用状況

- 1) 利用者延人員 5,084人 (前年度 5,419人)
- 2) 1日平均利用人員 21.10人 (前年度 22.39人)
- 3) 体験実習者延人員 4人 (前年度 6人)
- 4) 1日平均実習人員 0.02人 (前年度 0.02人)
- 5) 実習者実人員 3人 (前年度 3人)

1 2 利用者状況(令和4年3月31日現在)

1) 年齢

20歳以上30歳未満	16名
30歳以上40歳未満	3名
40歳以上50歳未満	8名
50歳以上60歳未満	1名
60歳以上	1名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	1名 (内身障手帳所持 1名)
愛の手帳2度	21名 (内身障手帳所持 3名)
愛の手帳3度	2名 (内身障手帳所持 2名)
愛の手帳4度	2名 (内身障手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	4名 (内愛の手帳所持 2名)
身体障害者手帳2級	5名 (内愛の手帳所持 4名)
身体障害者手帳5級	1名 (内愛の手帳所持 1名)

障害支援区分 平均障害支援区分 5.4 (前年度 5.4)

3) 通所手段 送迎車利用 28名 (内交通機関併用1名・家族送迎併用1名)

4) 居住状況 管内居住 18名 管外居住 11名

5) 性別 男性 23名 女性 6名

1 3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 4,308円 日給 : 275円
(前年度1人 月額 : 4,732円 日給 : 285円)

1 4 余暇支援実習状況

- 1) 参加者 実18名 延べ313人 (令和2年度実績 実18名 延べ315人)
- 2) 延実施回数 : 137回 (令和2年度実績137回)

月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数
4月	13回	28人
5月	12回	25人
6月	11回	27人
7月	12回	23人
8月	7回	21人
9月	10回	22人
10月	10回	24人
11月	13回	28人
12月	13回	34人
1月	13回	28人
2月	13回	29人
3月	10回	24人
合計	137回	313人

内容別実施及び参加状況

内容	実施回数	延参加人数	(令和2年度実績)	
入浴	11回	11人	(9回)	9人)
散歩	9回	12人	(11回)	14人)
ドライブ	57回	127人	(45回)	120人)
ボウリング	25回	82人	(24回)	84人)
調理	21回	53人	(21回)	48人)
外食	2回	2人	(8回)	8人)
散髪	6回	20人	(6回)	19人)
動画鑑賞	0回	0人	(2回)	2人)
音楽鑑賞	1回	1人	(0回)	0人)
食事一弁当	5回	5人	(11回)	11人)
合計	137回	313人	(137回)	315人)

15 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

16 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に参加を予定していた当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練については、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小した形での実施となり、今年度は不参加となった。